

たけふら

TAKUSUI
No. 734

12
December 2017

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



虹の仲間であそぶ (神戸市西区)

平成29年度 兵庫県水産賞 受賞者決定

但州丸の帰港式 ～県立香住高等学校漁業実習船～

《今月の海上安全標語》～着用義務化まであと2ヶ月を切りました～

ライフジャケットは普段から着ていないと、窮屈に感じたりしますね。

でも、いつも着用している人が言っていました。「3ヶ月位経ったら慣れるわ」と……。

着てみよう ^{みつき} 3ヶ月で慣れる ^{ライフジャケ} LJ では、今月も安全操業で!

ようこそ

「ずっと真つ直ぐに」

(ようこそとは航海用語で「宜しく候」の意。主に船を直進させるときの号令として使われる)

先達はあらまほしきことなり

兵庫県農政環境部水産課 主幹 藤 克 浩



三年間の東京での単身赴任生活を終え、この4月に神戸に戻って来ました。

私にとっては人生2度目の東京生活でしたが、小遣いが無いのに暇だけはある初老オヤジの一人暮らしは、貧しかった学生時代よりさらに侘しく寂しいものでした。

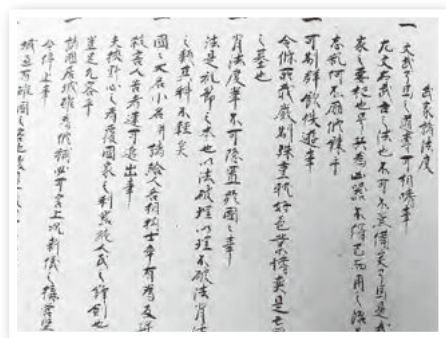
趣味に乏しい東京単身赴任者の多くは、大抵の場合、有名な店での飲み食いにはまるものですが、私の場合はそれすらままならず、主に美術館や博物館の隅っこでひっそり過ごす時間が多かったように思います。

日頃から無料招待券をせっせと集め、土日の午後、人が引いていく少し遅い時間に入館して、閉館間近まで悠々と入り浸ったものです。東京はこの点が、地方に比べて格段に充実していて、私も絵画、墨跡、彫刻、陶磁の至宝を堪能させてもらいました。今でもよく覚えていたもの一つは、東京国立博物館で観た「武家諸法度」の草稿原本です。書にはまったく親しみのない私ですが、美しく整った文字が、縦横のラインまっすぐに少しの狂いもなくびっしりと書き込まれ、しかも一画の書き損じも無い見事な出来映えに見惚れ、昔の日本人の能書ぶりと集中力の高さに感動しました。

能書といえ、私も職業柄、職場で古い文書を調べる機会も多く、時折、手書き時代の先輩職員が残した文字の美しさに驚くことがあります。今はワープロソフトのお陰で、私

のような悪筆極まりない人間でも生きていける時代になりましたが、昔は推敲に時間をかけ、丁寧に字を鍛えられたらうし、物事を思考し、理解し、記憶したのだと伺い知れます。今はワープロソフトのお陰で、作文も校正作業も早くはなったが、引き替えに多くの物を犠牲にしているぞと、先輩職員が教えてくれているように思います。

「すこしのことに先達はあらまほしきことなり。」(ちよつとしたことにも、指導者はいてほしいものだ。)とは、吉田兼好が徒然草に書き残した言葉ですが、なるほど先輩から学ぶことも多いものです。敬って見習うべしと、今更ながら思うこの頃です。



武家諸法度草稿

CONTENTS

No.734 December. 2017

- 2 ようこそ
- 3 兵庫県水産賞 表彰式
但州丸帰港式
- 4 たつの市立室津小学校で郷土料理給食会
大輪田塾修了生が講演
- 5 虹の仲間で森づくり
全国漁港漁場大会
- 6 神戸海上保安部航行安全課からのお知らせ
海難事故をなくそう
- 7 兵庫JCC通信
- 8 旬に想う
大輪田塾だより



表紙の言葉

「虹の仲間で森づくり」(神戸市西区)

今年も多くの人が参加し開催された「虹の仲間で森づくり」。

今までは事務局側での参加のため除伐作業は初体験でした。私の班は作業範囲の下の方を担当で、作業後に下った山道に登るのが中々ハードでした。

森に入り木を切る体験は中々できないことですので、興味を持たれた方、来年是非参加してください。この海と山を繋ぐ活動が継続することを願います。

県農林水産業の功労者表彰

“平成29年度 兵庫県水産賞”表彰式

平成29年度

兵庫県農業賞・林業賞・水産賞表彰式



受賞者の皆様(左から濱野様、濱本様ご夫妻、播磨様ご夫妻)

永年にわたり農林水産業の振興発展に貢献された個人や団体に贈られる兵庫県農業賞・林業賞・水産賞の3賞表彰式が、11月24日(金) 県公館(神戸市中央区)で行われました。

今年度の兵庫県水産賞はJF家島 濱野 展弥さん(78)、JF五色町 播磨 孝次さん(65)、JF但馬 濱本 晋一さん(70)の3名の方が受賞されました。表彰式では井戸敏三知事から表彰状ならびに記念の盾が贈られました。受賞されました皆様には、心よりお慶び申し上げます。



氏名	所属	功績内容
はまの 濱野 展弥	JF家島	家島地域の漁業の発展と漁業経営の安定化への貢献
はりま 播磨 孝次	JF五色町	サワラの資源管理体制構築とブランド化推進への貢献
はまもと 濱本 晋一	JF但馬	沖合底びき網漁業の振興と但馬地域の漁業調整への貢献

(敬称略)

兵庫県立香住高等学校 海洋科 学科オーシャンコース第2学年の生徒18名を乗せた漁業実習船「但州丸」は、マグロ延縄漁業など所定の実習を終え、船籍のある神戸港に帰港しました。

11月24日(金)の帰港式は、神戸港中突堤に停泊中の但州丸の前で行われ、学校、水産業界関係者や生徒の保護者など約60名の参加のもと行われました。

来賓として出席したJF兵庫漁連 田沼 政男会長は「今回の実習は大変貴重な体験となったと思う。これまで学んだ知識や技能、さらに情熱をもって、是非、水産業界を盛り上げて頂くことを期待



但州丸の帰港式が行われる 県立香住高等学校 漁業実習

します」と挨拶をされ、また、兵庫県JF共済推進本部 戎本裕明本部長より実習生代表に記念品が手渡されました。

今年10月20日(金)に香住港を出港し、台風などの影響で寄港先の変更もありましたが、長崎・広島・名古屋・清水港を経て、10回のマグロ延縄漁業実習を行い、横浜・神奈川県三崎港を経由した後、神戸港に帰港しました。

この後、但州丸は27日に神戸港を出港し、29日に香住港へ入港し約40日の実習を終えました。



たつの市立室津小学校で

郷土料理給食会

室津で水揚げされる新鮮な魚や地元野菜を使った「郷土料理給食会」が11月14日（火）、たつの市立室津小学校で開催されました。この給食会はJF室津やJF室津女性部（山田 奈保美部長）、地域の皆さんが町ぐるみで取り組んでおり今年で14回目になります。

地元食材を使ったシーフードカレーを中心とした献立となっており、室津小学校の全生徒がJF室津女性部などの指導により調理を担当し、お昼前には同校の体育館にシーフードカレー（シタピラメ、イカ、エビ入り）のほか、骨せんべい、シタピラメの甘辛煮、ほうれん草のご



まあえ、卵焼き、酢大根、寒天、地元で伝統の「友君ようかん」など、室津産と郷土料理にこだわった品々が並び、保護者、学校関係者、地域の皆さん、市関係



者、幼稚園児たちが集まり、食事を楽しみました。

また、給食会では6年生の修学旅行報告会や、同女性部メンバーで構成された魚魚市（とといち）一座による室津の海の環境についての寸劇が行われ大いに盛り上がりました。

室津小学校と同女性部が始めたこの会は、回を重ね、児童だけでなく地域の皆さんにも室津地区の地産地消や文化などを知ってもらえる行事として大きな役割を担っています。今後とも地域の方々の協力を得て続けられていくことを期待します。

大輪田塾修了生が講演 ～大分県 別府市～

11月12日（土）大分県別府市で「漁業者の減少・過疎化とどう向き合うか」のリーダーと漁業の役割とは」と題した大分県水産業の発展に向けた意見交換が行われ、大輪田塾修了生であるJF神戸市前田勝彦副組合長（1期生）とJF一宮町山中盛吉主任（10期生）が講師として招かれました。

この講演は大輪田塾運営委員である関西学院大学田和正孝教授が会長を務める地域漁業学会との繋がりで、大分県農林水産部水産振興課からの依頼により行われ、大分県の漁業者・県関係者40名を前に堂々と講演を行いました。

大分県の特別顧問である広島大学 山尾政博教授の漁業者の減少が続く中、浜のリーダーと漁協の役割について考える必要がある旨の趣旨説明の後、前田副組合長は「神戸市漁協の取組み」としてJF神戸市加工

品



講演を行う山中氏



質疑に答える前田氏

品の海外展開に向け県やETORO（日本貿易振興機構）との関係強化、神戸市の食都神戸2020構想の内部組織である海外展開促進協議会の会長に就任し、各国で開催される展示会に参加等による小売、飲食ホテル業界、各国マスコミ、領事館との関係強化の取り組み等について講演しました。続いて、山中主任は「一宮町漁協の市場集約の現状とこれから」をテーマに、JF一宮町の経営改善の取組として3つの共販市場を2つの共販市場へ集約することにより市場間の入札単価が発生しなくなったことや、集約により入札参加業者が集まりやすくなり入札が活発化したことなどの効果や漁場環境・水産資源の変化による集約後の現状など、販売業務を担当する漁協職員からの状況報告について講演しました。

質疑応答では、大分県の漁業者から様々な質問が出され、活発な意見交換が行われました。

虹の仲間で森づくり ～神出神社(神戸市西区)周辺で開催～

漁業者と消費者が共に手を携えて、豊かな海を支える森を育んでいくことを目的に、コープこうべとJF兵庫漁連が共同で取り組んでいる「虹の仲間で森づくり」は今年で11回目の開催となります。快晴に恵まれた12月2日(土)、神戸市西区にある雌岡山(神出神社周辺)に県内各地からJFグループ関係者、コープこうべの会員や行政関係者など約180名が集まりました。JF兵庫漁連 突々淳専務の挨拶、ひようご森の倶楽部 山下 広行会長より作業の注意事項説明の後、全員で準備運動を行いました。その後、ヘルメット姿の参加者は18班に分かれ、NPO法人「ひようご森の倶楽部」の指導員の皆さんに誘導され、次々に森に入りました。



作業前の森



作業後の森 明るくなりました

この後の昼食は、兵庫のりを使った巻き寿司、カキの味噌汁等が振る舞われ、同じ班のメンバーと楽しい昼食の時間を過ごしました。森の中で、木を切る、という作業なので、すが、たいへん、おもしろい、という感想が多く、何度も繰り返しご参加頂いている方が多い活動です。皆様も一度、是非参加してみてください。

作業について指導員の方から説明を受けた後、参加者は周囲に気を配りながら、広葉樹や花の咲く樹を残し、常緑樹や蔓性の植物を次々に除伐し、クマザサなどの下草も刈り取りました。約2時間の作業を終えると、地面を覆っていたクマザサも無くなり、太陽の光が差し込み、見通しの利くきれいな森になりました。作業を行った皆さんは「目に見えて日が差し込むようになった」と嬉しそうに話していました。



神出神社からの景色 西神・明石海峡・淡路島が一望

全国漁港漁場大会 in 岩手に参加



10月31日、岩手県盛岡市において「第68回全国漁港漁場大会」が開催され、兵庫県漁港漁場協会から浜上 勇人(香美町長) 会長、田沼 政男(JF兵庫漁連会長) 副会長はじめ総勢22名が参加しました。2泊3日の初日は、「南三陸町の語り部ガイド」の案内で震災の状況を見て回りました。最後まで避難放送を続けていた女性職員の印象が深い南三陸町防災対策庁舎や、大勢の人が犠牲になった公民館などを巡るだけでなく、適正な判断をして被害を最小限に防いだ状況などについても、熱心に語っていただきました。東北の幸を味わう情報交換会は、兵庫県内各地からの参加者が日頃の疲れを忘れて交流する、楽しく有意義なものでした。2日目は、震災後に整備され最新

の施設を備えた釜石漁港を視察し、釜石市職員等から詳しい説明を聞いたあと、地元女性部の温かいおもてなしをいただきました。午後から盛岡市に入り、国会議員や地元知事、関係漁業者等1,700人が集結した「第68回全国漁港漁場大会」に参加し、漁港漁場事業のさらなる推進を決議しました。

最後の1日は、仙台空港への帰路途中に平泉・中尊寺を訪れたあと、わんこ蕎麦をいただきました。参加者一同東北の歴史と文化に思いを馳せながら、各自無事に帰宅することができました。

来年の全国漁港漁場大会は、10月26日に大阪で開催されます。皆様多数の参加を心からお待ちしています。(文:兵庫県漁港漁場協会)



2017.11.1



高齡者の事故が増加傾向にあります!

神戸海上保安部航行安全課からのお知らせ

船長さん!! ホントに大丈夫?

衝突 **乗揚**

まわりの状況は? **スピードは?** **位置は?** **方向は?**

JCG 第五管区海上保安本部

高齡者による海難を防ぐために

個人差はありますが、高齡者の特徴として

- 注意力や集中力の低下
- 動体視力の衰えや反応時間の遅れから危険の発見が遅れがちになる傾向
- 瞬間的な判断力の低下
- 過去の経験にとらわれる傾向

等があると言われております。

このため慣れた海域でも、船員としての基本に立ち返り、

- 見張をしっかり(まわりの状況把握)
- 安全な速力
- 自船の位置を把握
- 安全な進路を把握

等の適度な緊張感を持って操船することが大切です。

海難事故をなくそう!

“平成30年2月

ライフジャケット着用義務化はじまる!”

ライフジャケットを着用することで助かる可能性は飛躍的に向上します。自分自身のために、そして、家族のために是非、着用しましょう!

救命合羽も是非お試しください。

ライフジャケット・浮力合羽の購入は

所属JFか

JF兵庫漁連のり海藻部資材担当(078-942-9272)

までお問い合わせください



モデル：由良町漁協協4Hクラブ 小濱健司さん(左)
室津新潮会 岡野門太さん(右)

兵庫県産きぬむすめ 主婦向けLINEスタンプでPR

JA全農兵庫は11月、兵庫県産きぬむすめのキャラクター「きぬこちゃん」を用いて、主婦層にも利用者の多いスマートフォンの通信アプリ「LINE」のスタンプでPRを始めました。主婦が使いやすいよう、基本の挨拶や家族で使えるセリフを盛り込み、お米や兵庫県を要素にした遊び心のあるスタンプを24種類作成。デザインやセリフの制作には全農兵庫の女性職員が意見を出し合いました。

きぬむすめは、2011年産から県南部・淡路地区で本格的に作付けが始まり、それに合わせてPRキャラクターの「きぬこちゃん」が誕生しました。頭に米粒型のかぶりものを着け、兵庫県の形をしたクッションを持ち歩き、“JAグループ兵庫のきぬむすめ”をPR。夏の暑さにも負けない元気な女の子をイメージしています。JA全農兵庫では、きぬこちゃんの着ぐるみやうちわ、シールなどを作成しています。

JA全農兵庫米麦課は「きぬこちゃんを通じて兵庫のきぬむすめを主婦のみなさんに知ってもらいお米の販売につなげたい。スタンプがみなさんのコミュニケーションに役立てば」としています。

兵庫県産米「きぬむすめ」
きぬこちゃんラインスタンプできました！



きぬこちゃんのLINEスタンプ

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

兵庫県・兵庫県生協連 共催

第20回「監事研修会」を開催

11月10日（金）、兵庫県民会館において兵庫県・兵庫県生協連共催による「第20回監事研修会」を開催しました。この研修会は、生協運営の健全な発展に果たすべき監事の役割と監査の実務のあり方を学び、今後も健全な生協運営を実施していただくために計画したもので、15生協27人が参加しました。

はじめに、兵庫県 企画県民部 県民生活局 消費生活課 奥見知子主幹より「生協の指導検査を実施して」と題して、運営・経理面それぞれの指摘事項から監事の役割や内部管理態勢の監査ポイントについて、お話しいただきました。また、日本生協連 法規会計支援部 岡坂 充容氏より「監事監査の基本と監査のポイント」と題して、監事職務の基本や業務監査の方法、会計監査のポイントについて、講義いただきました。また、その後の分野別グループディスカッションでは、それぞれの監査状況などを共有しました。参加した役員や職員、監事からは「監事の責務の重さを改めて確認することができました」「他生協から自生協に活かせる有効な会議のヒントをもらうことができました」などの感想が寄せられました。



日本生協連 法規会計支援部 岡坂 充容氏



グループディスカッション

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>



旬に想う

写真と文
遊方子

男はつらいよ / 寅さん

◆寅さん映画はシリーズ化され48作続いてギネスブックにも登録された。TVドラマで水戸黄門や銭形平次など長期の連続物はあったが、喜劇映画でこれほど長く人気が続いたのは世界的にも珍しい。主演の渥美清の魅力だろうが、舞台となる団子屋に集うおじちゃんおばちゃん、妹サクラや博・満男、隣のタコ社長等、脇を固めるレギュラー陣が良かった。そして、毎回のゲスト出演者や背景となる全国諸方の名所旧跡の楽しみもあった。脚本の巧さと、失望させない映画作りの裏方の努力も大きく、記念館が出来たというが当然だろう。筆者が好きなのは、播州龍野ロケの『夕焼け小焼け』で、東京はどっちだと合掌する場面である。芸者ボタン役を演じた太地喜和子が、助演女優賞を獲得している。

◆帝釈天の門前町、柴又は観光地になっている。題経寺の住職役／御前様の笠智衆は、古くからの俳優で数々の映画で印象深い。45作目「…の青春」を最後に89歳で逝去したが、以降の作品では身延さんに出掛けていたりして、台詞の中に生きている。寺男／源公も忘れ難い脇役だ。オープニングコントで何度も登場した津嘉山正種は、本編でも色んな役をこなして器用な俳優だと思う。往年の名優が寸役で出たり、主演級が顔を出すのも一つの呼び物であった。岡田嘉子・島田正吾・小林幸子・米倉斉加年・長門勇・財津一郎・大村崑・上条恒彦ら。

◆唯一の海外ロケ作品『心の旅路』はウイーン市長が、機内で寅さん映画を観て感動しウイーンロケを推奨、4年越しの熱意が実現した。市内名所の数々が登場する。歩いているだけで音楽が聞こえて来る、この街いいねといひ、勇壮なドナウ河を江戸川に例え「何処の川も流れ流れて海に注ぎ、その海をずうーと行くと故郷の江戸川に繋がる」と寅に言わせていた。『ハイビスカスの花』は沖繩ロケで、暑さに喘ぎ細い電柱の陰へデカイ顔を隠そうと必死の姿に、思わず失笑させられた。あの仕草には浅草軽演劇で磨いた演技が滲み出ている。

◆全作品がテレビで放映され、また新しいファンが増えたようだが、懐かしい昭和時代の風景が観られる映画としても嬉しい存在である。主役・渥美清の急逝でシリーズは終了したが、山田洋次監督の腹積もりはあと2作を作ったかっただけという。その49作「花へんろ」で満男と泉が結婚、50作では寅次郎が幼稚園の用務員として働き、園長に黒柳徹子を考えていた。急拠、製作中止になった幻の作品には、西田敏行・田中裕子が出演し、高知県を舞台に準備されていたそうだ。ロケ予定の安芸市に「寅さん地蔵」が建った。根強い人気が判る。

大輪田塾だより

「兵庫県の資源管理型漁業について」と「兵庫県の水産業について」

11月28日(火)に大輪田塾が開講されました。

第一部の「兵庫県の資源管理型漁業について」では、県水産課漁政班 齋藤公司さんより、資源管理の手法や乱獲の定義、本県の資源管理型漁業についての取組や問題点等について詳しく解説がありました。

第二部の「兵庫県の水産業について」では、県水産課 中岸 明彦副課長から、平成元年と平成26年の兵庫県水産業のデータを比較し、漁業就業者や主要魚種漁獲量の推移や漁法の変化、どのような水産施策が行われたかなどの説明が行われ、兵庫県漁業の変化等について語られました。

塾生からは、資源管理について現場からの意見が述べられるなど、活発な意見交換が行われました。



兵庫県の水産業について講義の様子



資源管理型漁業についての講義の様子